

コリント人への手紙第一 3 章 18-23 節「キリストのものとして」

小池 宏明 牧師

今回の 3 章の終わりは、コリントにある教会の仲間割れ、分派の問題を解決するための中間的なまとめで、基本的で重要な真理を示している。

*すべてはキリスト者のもの

21 節「ですから、だれも人間を誇ってはいけません。すべては、あなたがたのものです。」

以前「誇るなら主を誇れ！」と語られているとおり。すべてが、あなたがた教会のものなのだ、と言う。私たちキリスト者はイエス・キリストという狭い門から入り、キリストこそ私の唯一の救い主と、狭い道を通って救われてきた。しかし、中に入ると、すべてが与えられている、と言う。なぜなら、23 節前半「あなたがたはキリストのもの、…」だからだ。私たちが、主イエス・キリストを信じて救われて、キリストのものとなっていることを通して、キリストとともにすべてを受け継ぐことができる。私たち教会は、主イエス・キリストだけに属し、キリストにのみ従う「しもべ」である。私たちクリスチャンは、三位一体の神、すなわち父と子と聖霊の神様に属する者であり、全ての教会のリーダーや教職者であっても同じ神に属する者たちである。23 節後半、「・・・キリストは神のものです。」主イエス・キリストも三位一体の神様の交わりの中で存在している主なる神そのものだ。

*キリスト者の立場を自覚して

パウロは、これまでも何度も「あなたがた（クリスチャンたち）は」何者なのか、語ってきた。3 章 9 節後半「…あなたがたは神の畑、神の建物です。」また、3 章 16 節「あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。」神の宮であり、神の御霊が住んでおられるあなたがた一人ひとりである、と明言している。そして、今回 23 節前半「あなたがたはキリストのもの…」なのだ、言うのである。

私たち救い出されたクリスチャンは、キリストに属する者であり、神の建物、聖霊の宮である。キリスト者は罪の奴隷ではない。私たちは、この世の知恵者の支配下にはいない。私たちは、死にゆく不安や恐怖に支配されない。私たちはキリストに属するキリストのもの。私たちは互いに互いをキリストに属する者として認め合うならば、一致できる。仲間割れも派閥も起きそうになることはあるかも知れないが、分裂はしない。もう一度、クリスチャンの立場を深く自覚して再出発しよう。